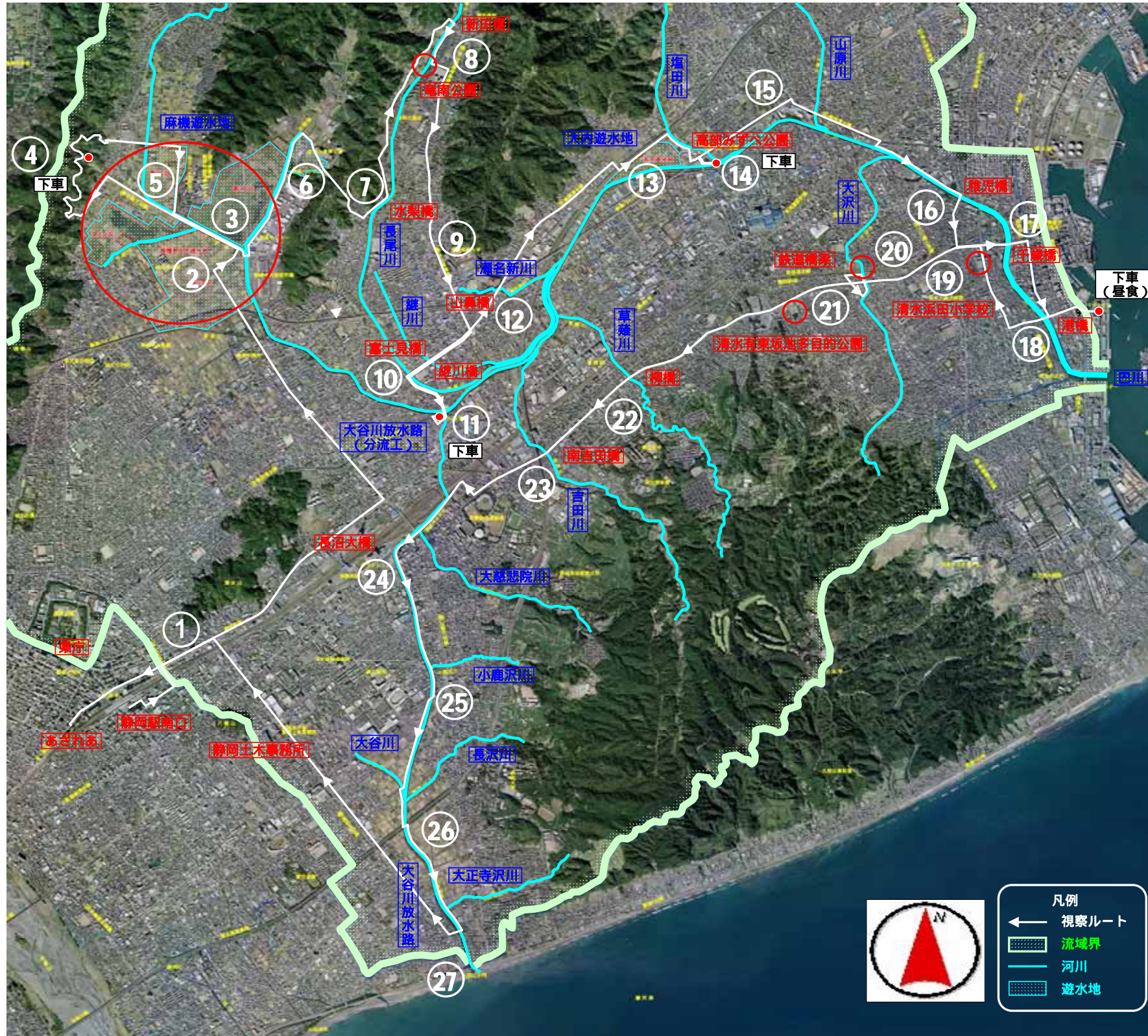
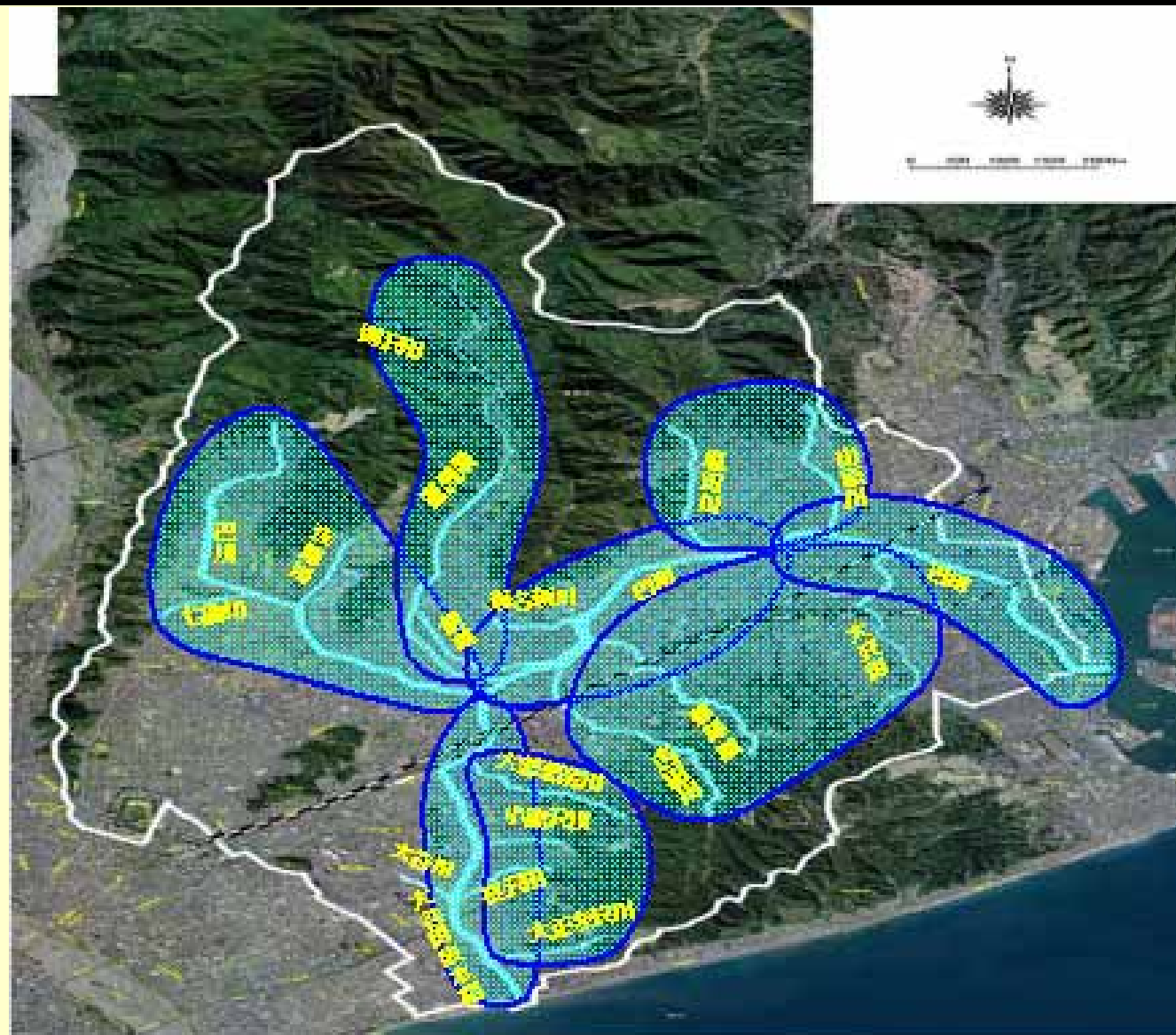


巴川水系流域委員会 現地視察ルート



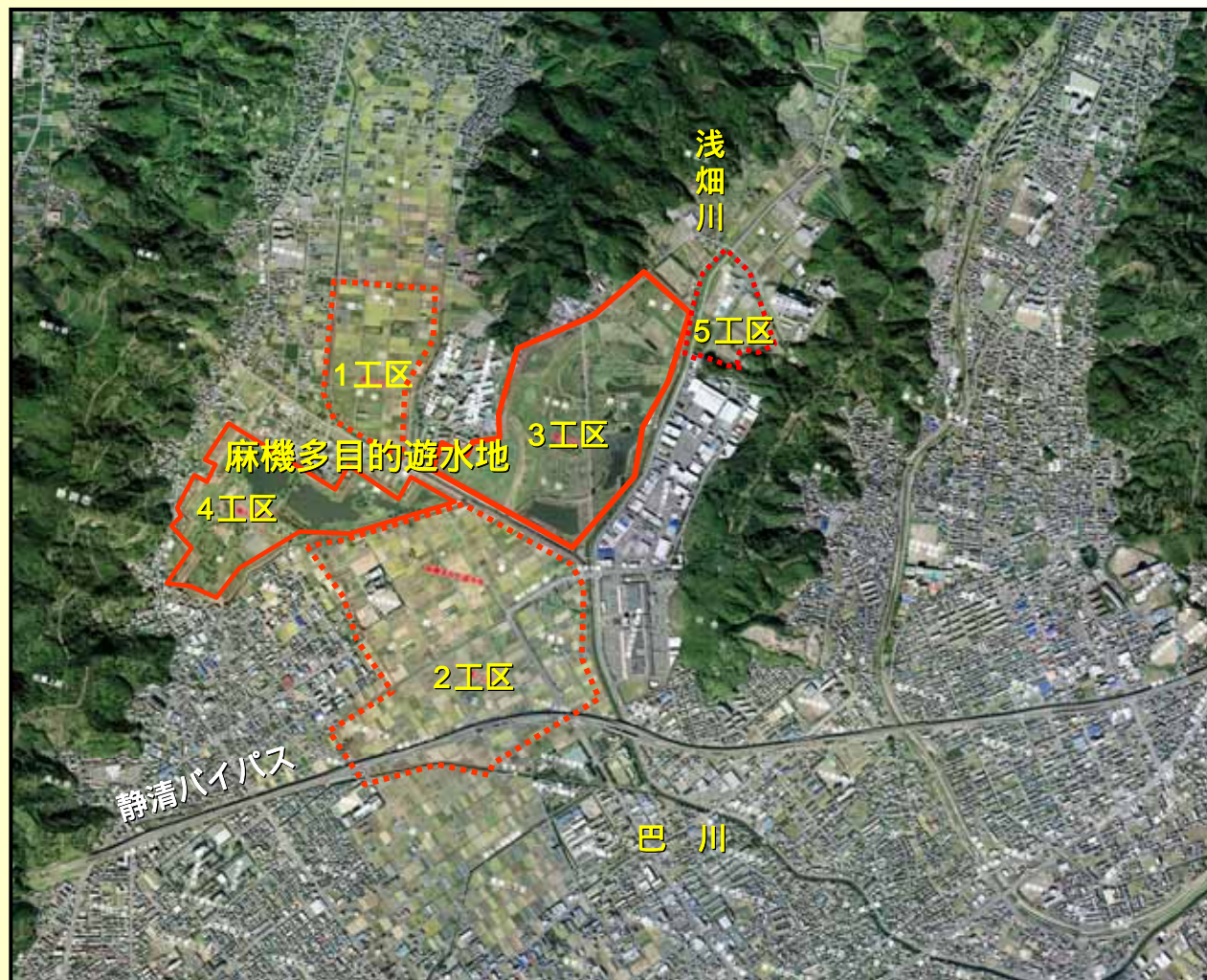
巴川流域を8ブロックに分けて河川ごとに概要をまとめていきます。



河川の概要

1. 巴川上流部（麻機など）
2. 巴川中流部（大内など）
3. 巴川下流部（河口域）
4. 大谷川放水路
5. 長尾川
6. 山原川・塩田川
7. 大沢川・草薙川・吉田川
8. 長沢川・大正寺沢川など

かつては、ひとたび降雨となると一面に水がはり、水はけが悪い低地でした。今では都市域近郊の貴重な水辺空間として、田園風景が残されています。



柴あげ漁の様子



都市近郊にのこされた水辺空間

良好な生態系、里地里山環境にあった人と自然との共生、そして周辺の自然とのつながりを取り戻し後世に伝えるために「自然再生協議会」による取り組みが始まっています。

自然再生協議会



植物の観察会



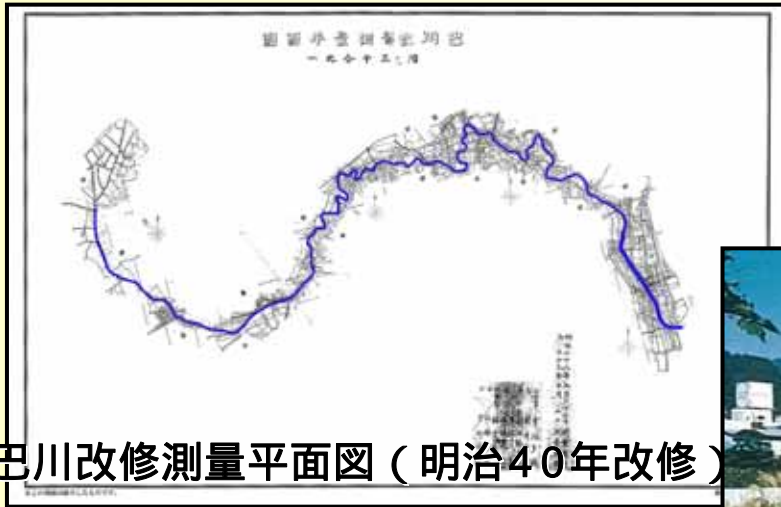
現地調査



バードウォッチング（麻機遊水地）



明治から大正にかけて先人たちが蛇行していた河川を改修しました。協働による流域管理や市民活動が活発に行われています。



巴川改修測量平面図（明治40年改修）



大内地区の協働による流域管理



大内遊水地の全景



巴川改修記念の碑
(弥生緑地下流)



竹林伐採による門松づくり

巴川の蛇行を利用して江尻城が築かれました。江戸時代以降、巴川河口部は清水湊としてにぎわい、駿府城と全国を結ぶ重要な役割を果たしてきました。

江尻城の古図



広重の描いた清水湊



賑わいを見せた河畔の魚市場
(明治40年代 港橋)



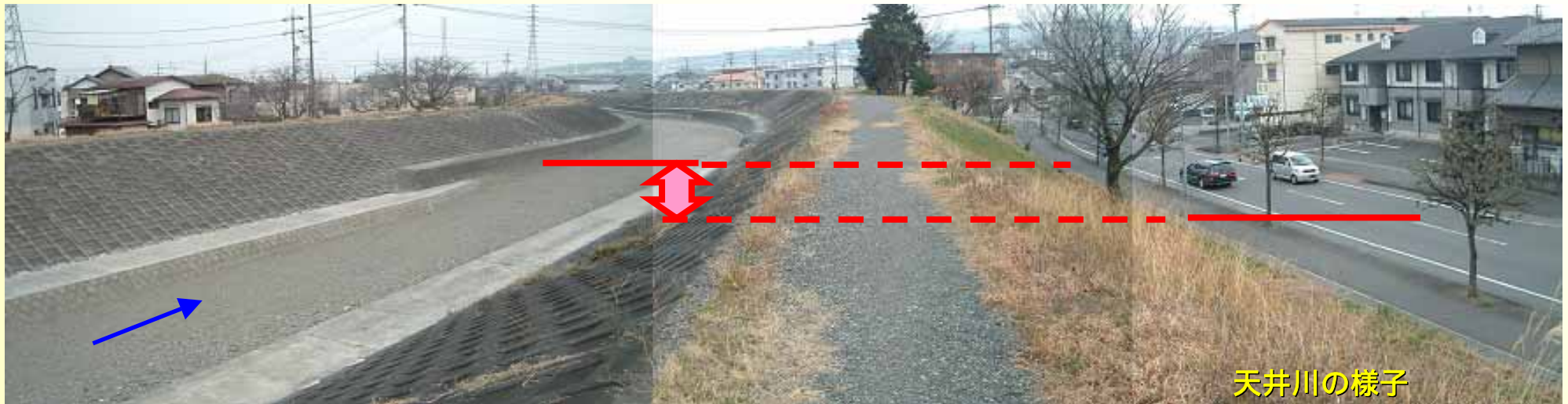
現在の江尻小学校前の親水護岸整備



津波対策として堤防の嵩上げ、水門の設置を行っています。



長尾川は典型的な扇状地河川であり天井川をなし、出水によりいきいきに水位が上昇します。水遊びなどが行える河川空間を有します。



長尾川の沿川においても急速な市街化が進んでいます。

昭和26年の瀬名の風景



撮影 石脇孝三氏 (昭和26・1951年)

平成11年の瀬名の風景



撮影 水野茂氏 (平成11・1999年)



市街化の様子

両河川の沿川でも住宅化の波にさらされ河川環境は大きく変化しています。山原川は農業用水として利用され上流部ではため池が整備されています。地域のみなさんによる河川活動も盛んに行われています。

山原堤



山原川での水遊び



山原川のリバーフレンドシップ



塩田川水車小屋 (ふれあいの里)



塩田川改修碑
(治水安民生昭和29年)

塩田川の清掃



日本平の北側の丘陵を流下する大沢川・草薙川・吉田川は住宅地を流れる急流河川です。

大沢川下流部の改修状況（新追分橋付近）



大沢川中流部の状況（春日橋付近）



草薙川の現況



吉田川（駿河区中吉田）



大沢川・草薙川・吉田川は地域の身近な水辺空間として、お祭りや河川環境学習などに利用されています。



日本平の西側の丘陵を流下する長沢川、大正寺沢川などは、住宅地をぬけて放水路へ流入する急流河川です。ため池などを利用した雨水流出抑制対策を実施しています。

